

Title	聖学院大学大学院・総合研究所教員活動報告書(2009年度)
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.20-1
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2216
Rights	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

聖学院大学大学院・総合研究所 教員活動報告書（2009年度）

ふか い とも あき
深井 智朗

現職位：教授

本学への就任：1997年4月1日

最終学歴：

1996年6月 アウクスブルク大学哲学・社会学部
博士課程修了

取得学位：

1996年6月 Dr. Phil. (アウクスブルク大学)

2005年11月 博士(文学)(京都大学)

所属学会：日本哲学会(1996年～)、日本宗教学会(1997年～)、日本基督教学会(1998年～)

担当科目：大学院 ドイツ語講読B(ドイツ語で人文科学の専門書を読む)、大学院 キリスト教文化学D(全集未収録の初期バルトの講

演を読む)、学部 ドイツ語D(同上)、キリスト教と倫理的諸問題B(いわゆる公共神学の歴史と課題について)

専門分野：近代ドイツ思想史

研究テーマ：1) ヴィルヘルム帝政期からヴァイマル共和国期の社会と神学 2) フランクフルト学派とパウル・ティリッヒ

研究内容：1) についてはヴィルヘルム帝政期の研究を終え、ヴァイマル共和国期の研究を開始した。2) についてはアドルノ、ホルクハイマー、マルクーゼ、フロムとのティリッヒとの思想的交流や個人的関係についての調査研究を共同研究として行っている。

研究業績(2009年度〈2009/4～2010/3〉)
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Aa 学術書	『憶えよ、汝死すべきを——死をめぐるドイツ・プロテスタント主義と音楽の歴史』(大角欣矢氏との共著)	日本キリスト教団出版局	16世紀から20世紀前半までのプロテスタント主義における死の問題を取り上げた。一世紀ごとに大角氏が音楽学の視点から、深井が神学の問題から論じた。	2009年4月
Aa 学術書	『十九世紀のドイツ・プロテスタント主義——ヴィルヘルム帝政期における神学の社会的機能についての研究』	教文館	ヴィルヘルム帝政期のルター派リベラリズムをこの時代の政治史との関連で論じた。2009年度日本ドイツ学会奨励賞を受賞した。	2009年8月
Aa 学術書	『神学とキリスト教——その今日的可能性を問う』	キリスト新聞社	2009年3月に行われた日本基督教学会関東支部会でのシンポジウムの成果をまとめたもの。「キリスト教文化学」とは何かを分担して論じた。	2009年7月
E 翻訳	F・シュライアマハー『神学通論1811年／1830年』(加藤常昭氏との共訳)	教文館	シュライアマハーの主著のひとつ、『神学通論』の初版(今回初訳)の翻訳と詳細な解説を付した。	2009年6月

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Ba 学術論文	「神学は神学を超えて神について語ることができるのか——二〇世紀神学史の遺産と可能性」	『宗教哲学研究』26号2009年1～17頁 京都宗教哲学会 昭和堂	20世紀神学史における神認識の問題を哲学史との関連で論じた。	2009年4月
C 学術論文	「黒崎幸吉のアドルフ・フォン・ハルナック論——『新世』に掲載された『全集』未収録の論考をめぐって」	『聖学院大学総合研究所紀要』45号(2009年) 187～215頁	黒崎幸吉氏がドイツ留学から戻ってすぐに書いたハルナックについての論稿の復刻と詳細な解説。	2009年9月
C 学術論文	「エルンスト・トレルチの個人蔵書——調査報告」(ザビーネ・ヴァーグナー氏との共著)	『聖学院大学総合研究所紀要』45号(2009年) 216～265頁	ザビーネ・ヴァーグナー氏が1994年にベルリン大学図書館で行ったトレルチの蔵書についての調査に、新たに発見した資料を付して、再構成した調査報告	2009年9月
C 学術論文	「アール・ヌーボーの時代の神学」	『聖学院大学総合研究所紀要』46号(2009年)	ヴィルヘルム帝政期の神学における歴史主義の問題とその克服について論じた。	2010年3月
G 評論	「出版社の神学」	『福音と世界』新教出版社2010年1月～	ヴィルヘルム帝政期からヴァイマル共和国の出版編集者オイゲン・ディーデリヒスに焦点をあてて、この時代の思想史を読み解く試み。	2010年1月から連載開始
G 評論	「プロテスタンティズムの遺伝子鑑定」	『春秋』春秋社2010年1月～	日本の近代化とプロテスタンティズムとの関係を論じる。	2010年1月から連載開始
G 書評	書評「土戸清『使徒言行録』(日本基督教団出版局)」	『本のひろば』2009年4月号		2009年4月
G 書評	書評「A・E・マクグラス『プロテスタント思想文化史』(教文館)」	『本のひろば』2010年3月号		2010年3月

みやもと さとる 宮本 悟

現職位：准教授

本学への就任：2009年4月1日

最終学歴：

1992年3月 同志社大学法学部 卒業
1999年2月 ソウル大学政治学科 修了
2005年3月 神戸大学大学院法学研究科 修了

取得学位：

1992年3月 学士(法学)
1999年2月 政治学修士
2005年3月 博士号(政治学)

所属学会：日本政治学会(1999年～)、日本国際政治学会(1999年～)、現代韓国朝鮮学会

(2000年～)、日本ピューリタニズム学会
(2008年～)、日本比較政治学会(2008年～)、
日本国際安全保障学界(2010年～)

専門分野：朝鮮半島研究、安全保障論、政軍関係論

研究テーマ：南北朝鮮の対外関係と安全保障政策

研究内容：現在の核問題や米韓関係に直結する1970年代の南北朝鮮の外交政策や安全保障政策の研究。北朝鮮の武器取引や軍事政策に関する研究。

研究業績(2009年度〈2009/4～2010/3〉)
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	同盟関係が南北朝鮮の全方位外交と核開発に与えた影響—〈見捨てられ〉と〈巻き込まれ〉の視点から—	『聖学院大学総合研究所紀要』45号	本稿では、南北朝鮮の全方位外交期と核開発期の比較をすることで、南北朝鮮が核兵器開発に着手するのは、同盟関係の危機だけではなく、全方位外交にも失敗した場合であることを明らかにした。	2009年9月
Bb 学術論文	1970年代における朝鮮民主主義人民共和国の国連外交	『聖学院大学総合研究所紀要』46号	本稿では、ほとんど研究されなかった1970年代における北朝鮮の国連外交を検討し、統一政策と考えられてきた国連外交が、安全保障のための対米政策であり、その米朝関係の図式が現在でも続いていることを明らかにした。	2010年3月
Bb 学術論文	南北交易に対する経済動向の影響	『海外事情』第57巻第7・8号	本稿では、2008年以来南北朝鮮の交易が減少しつつある要因が、李博明政権誕生などの政治的なものではなく、景気動向などの経済的ものによるところが大きいことを明らかにした。	2009年7月
D 研究ノート	サミュエル・ハンチントンと政軍関係論	『聖学院大学総合研究所Newsletter』Vol.19, No 1, 2009	サミュエル・ハンチントンの政軍関係論を整理した上で、未解決のまま残された課題について論じた。	2009年7月
D 研究ノート	北朝鮮の核実験の目的について	『聖学院大学総合研究所Newsletter』Vol.19, No 2, 2009	北朝鮮による2009年5月25日の核実験の目的について、それまでメディアで説明したものも含めて、論じた。	2009年11月
D 報告	長老会神学大学校における総長就任式	『聖学院大学総合研究所Newsletter』Vol.19, No 3, 2009	本学の韓国提携校である長老会神学大学校の総長就任式に参席し、その様子を報告した。	2009年11月
D 報告	長老会神学大学校の終業礼拝	『聖学院大学総合研究所Newsletter』Vol.19, No 4, 2009	本学の韓国提携校である長老会神学大学校の終業礼拝に参席し、その様子を報告した。	2010年2月
D 報告	対朝援助の受け入れと課題	『北朝鮮経済の現状と今後の展望に関する調査研究報告書』東アジア貿易研究会	1995年以來の国際社会による対北支援の傾向を分析することで、現在の北朝鮮の支援が人道援助から開発援助に切り替わりつつあることを明らかにした。	2010年3月
F 講演	北朝鮮の武器輸出政策と兵力数計算方法	韓国統一省での講演(非公開)	北朝鮮の海外武器輸出の歴史とその目的を説明した上で、1980年以降は武器技術移転に力を入れていることを説明し、さらに北朝鮮の兵力数を計算する方法を説明した。	2009年9月6日
F シンポジウム発表	Roles of China in the Six Party Talks and Northeast Asia Security	『改革開放30年と中国の政治変化』仁川大学シンポジウム	中国が六者会合を通じて、仲介者として北東アジアの安全保障構築に貢献してきた役割を明らかにした。	2009年10月30日
F 発表	民主党の対北政策	『国民大学日本学研究所コロキウム』(第54回)	日本民主党の党内派閥構造や鳩山首相の言説を検討しながら、民主党の対北政策が以前のもので変化があまりないことを論じた。	2009年11月13日

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 学会発表	韓国の政軍関係一軍隊の命令系統とクーデター発生の関係	『国際安全保障学会』2009年度大会	韓国におけるクーデターの失敗例と成功例を比較することによって、クーデターが失敗する要因の一つに軍隊の分裂があることを明らかにした。	2009年 12月5日
F シンポジウム発表	北朝鮮の軍事力	『東アジアの平和と民主主義—北朝鮮問題と地域安定基盤の構築』2009年度聖学院大学国際学術シンポジウム	北朝鮮研究のこれからのあり方の一例として、北朝鮮の兵力数の計算方法を提示した。	2010年 2月6日

こう まん せん
高 萬 松

現職位：助教

本学への就任：2005年4月1日

最終学歴：

1981年2月 韓国、慶北大学校工科大学卒業
1999年2月 東京神学大学大学院修士課程修了
2005年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了

取得学位：

1999年2月 神学修士（東京神学大学）
2005年3月 学術博士（聖学院大学）

所属学会：日本基督教学会（2001年～）、日本ピュー

リタニズム学会（2005年～）、学校伝道研究会（2005年～）

担当科目：（大学）キリスト教とアジア文化A、キリスト教とアジア文化B

専門分野：組織神学

研究テーマ：韓国キリスト教会の歴史、ピューリタニズムの神学と倫理

研究内容：1) 初期韓国キリスト教会とピューリタニズムとの関係。2) 日本植民統治下での韓国キリスト教会の受難と抵抗。3) 韓国教会の現状について。

研究業績（2009年度〈2009/4～2010/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
F 学会発表	初期韓国教会とピューリタニズム—H.G.Underwoodを中心にして	日本ピューリタニズム学会	ピューリタンの思想の持ち主であった初期宣教師達によって、韓国民は人権を回復し、霊的自由を得た。その思想は韓国社会に道徳的・倫理的な力を与えた。初期宣教師達の中心にアンダーウッドが立っている。	2009.6.20
D 研究ノート	戦前における韓国教会の公的関心について	『聖学院大学総合研究所News Letter』Vol. 19-3.	キリスト教に対する日本帝国主義の基本政策は敵対政策であった。神社参拝を拒否した理由で最も激しい弾圧を受けた李源永牧師は「公は私の根本」だと語った。公的関心事の極致だと思われる。	2009.11

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	韓国教会の受難と抵抗—「日韓併合」から解放の間	『聖学院大学総合研究所紀要』No.46	植民地時代に韓国教会は日本帝国主義からの迫害の対象であった。1930年代後半からの神社参拝の強要は最も厳しかった。有力教団がそれに妥協し屈服していた最中、抵抗したキリスト者も少なくなかった。抵抗した信仰者の共通の特徴があった。それは「神の義」の希求であったのである。	2010. 1
Ba 学術論文	初期韓国教会とピューリタニズム—H.G.Underwoodを中心に	『ピューリタニズム研究』第4号	宣教初期に設立された教会は「集められた教会」(gathered church)という理念を持つピューリタンの「会衆派教会」(Congregational Church)と似ている。教会の発展に伴い、聖別のために用いられた原理はピューリタンと同様に「見ゆる聖徒」(visible saints)という理念であった。また、アンダーウッド等は、彼等の先祖であるニュー・イングランドのピューリタンのように、教会と国家の「分離」の立場を堅持した。	2010. 2
Bb 学術論文	韓景職とその時代—正義と平和を中心として	『聖学院大学総合研究所紀要』No.47	韓景職牧師の生涯は一言で「神を仰ぎ、人を愛する」という言葉で要約できる。テンプレート賞の歴代受賞者の紹介文のように、韓景職は六万人規模の教会を設立した牧師だけではなく、北朝鮮からの避難民と貧しい人々に対して愛を示し、平和を切実に願った平和の使徒と呼ぶことができよう。	2010. 3
F 学会発表	韓国教会の成長と危機	日本基督教学会関東支部会	韓国のキリスト者は全人口の18%で862万である(2005年政府の統計)。それは今まで漠然に用いられていた全人口の25%、1,000万という数値とは違う。また、1990年代から量的成長が停滞し、2000年代からはマイナス成長という現状である。カトリックは急成長している反面、プロテスタント教会は信頼度が落ちている。危機であろう。	2010. 3.

まつもと しゅう
松本 周

現職位：助教

本学への就任：2009年4月1日

最終学歴：

1996年3月 聖学院大学人文学部欧米文化学科卒業

2002年3月 東京神学大学神学部神学科卒業

2004年3月 東京神学大学大学院神学研究科博士前期課程修了

2009年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化学研究科博士後期課程修了

取得学位：

2004年3月 神学修士（東京神学大学）

2009年3月 博士（学術）（聖学院大学）

所属学会：日本キリスト教社会福祉学会（2002年～）、日本基督教学会（2002年～）、学校伝道研究会（2005年～）、日本ピューリタニズム学会（2005年～）

学生指導：大学院生のチューター

専門分野：組織神学

研究テーマ：キリスト教社会倫理、近現代キリスト教史（特に日本）

研究内容：現代神学における〈人格〉と〈人権〉の関係理解について、日本プロテスタント史における〈祈り〉の受容と変容の問題

研究業績（2009年度〈2009/4～2010/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
Bb 学術論文	「熊野義孝と大木英夫の教会観—〈国民的自由教会形成〉をめぐって」	『聖学院大学総合研究所紀要』第45号	熊野と大木の教会観について比較検討、両者の相違を〈神学論的自由教会〉と〈教会史的自由教会〉として論述した。	2009年9月
Bb 学術論文	「大木英夫神学における〈人格〉と〈人権〉—ピューリタニズム倫理理解との関連で」	『聖学院大学総合研究所紀要』第45号	大木神学の〈人格〉と〈人権〉両概念の関係を分析、近代化論による人権理解と神学論的人権論とを論じた。	2009年9月
D 研究ノート	「宗教思想とその社会的役割」	『聖学院大学総合研究所Newsletter』vol.19-1	キリスト教思想による、現代日本社会への貢献可能性について記した。	2009年7月
D 研究ノート	「植村正久における『志』再考」	『聖学院大学総合研究所Newsletter』vol.19-2	植村の「志」概念を、キリスト教的〈祈り〉との関連で解釈する道筋について述べた。	2009年11月
D 研究ノート	「伝道—〈道を伝えること〉と〈道で伝えられること〉」	『聖学院大学総合研究所Newsletter』vol.19-4	プロテスタント日本伝道150年に際し、鉄道の全国敷設とキリスト教伝道の関係について記述した。	2010年2月
D 研究ノート	「ラインホルド・ニーバーと日本—〈冷静を求める祈り〉の受容について」	『聖学院大学総合研究所Newsletter』vol.19-4	多くの日本人に親しまれている、ニーバーの祈りに関して、その神学的要点と日本の変容について述べた。	2010年2月
F シンポジウム	「日本国憲法とピューリタニズムとの関係—エーミル・ブルンナーと大木英夫」	日本ピューリタニズム学会第4回研究大会「戦後日本とキリスト教」シンポジウム	同学会企画委員会の依頼により、日本国憲法とピューリタニズムの社会倫理との関わり合いについて報告した。	2009年6月
F 学会発表	「植村正久における祈りの霊性」	日本基督教学会第57回学術大会	植村による、キリスト教的〈祈り〉の発見と、彼の神学思想への影響について報告した。	2009年8月

佐藤 貴史

現職位：特任研究員

本学への就任：2006年4月1日

最終学歴：

2002年3月 聖学院大学大学院政治政策学研究所
修士課程修了

2006年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨー
ロッパ文化学研究科博士後期課程修
了

取得学位：

2002年3月 政治学修士（聖学院大学）

2006年3月 学術博士（聖学院大学）

所属学会：日本基督教学会（2003年～）、日本宗
教学会（2004年～）、政治思想学会（2005年
～）、日本ピューリタニズム学会（2006年～）、
京都ユダヤ思想学会（2008年～）、実存思想

協会（2008年～）、Internationale Rosenzweig
-Gesellschaft（2009年～）、社会思想史学会
（2009年～）

担当科目：大学：「ユダヤ文化」（古代から現代ま
でのユダヤ人の文化・思想・歴史）、「政治哲
学」（「例外状態」、「監視」、「社会的連帯」な
どのテーマを軸にした20世紀政治哲学史）

専門分野：ヨーロッパ社会思想史、近代ユダヤ思
想史、政治哲学

研究テーマ：20世紀初頭のドイツにおける思想お
よび政治哲学

研究内容：フランツ・ローゼンツヴァイク、ヘル
マン・コーエン、レオ・シュトラウスなどの
ユダヤ人思想家の研究。

研究業績（2009年度〈2009/4～2010/3〉）
下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
Aa 単著	『フランツ・ローゼン ツヴァイク——〈新 しい思考〉の誕生— —』	知泉書館	F・ローゼンツヴァイクの〈新しい思 考〉を時間と永遠性の関係を軸にして 考察した。	2010.2
Bb 学術論文	「プロテスタント神 学者トレルチとユダ ヤ人哲学者コーエン の論争——方法論か ら文化総合の問題へ ——」	『聖学院大学総合研 究所紀要』第47号	E・トレルチとH・コーエンの思想を方 法論の違いから分析し、それが最終 的に文化総合という問題に直結して いることを明らかにした。	2010.3
D 研究 ノート	「越境する歴史叙述 ——方法論をめぐる 一断片」	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』Vol. 19-1	F・W・グラーフの論考を参照しなが ら、宗教思想史を叙述するための方 法論について著した。	2009.5
D 研究 ノート	「歴史主義の不安か らの解放？——〈超 歴史〉と〈新しい中 世〉——」	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』Vol. 19-2	価値の相対化をもたらす歴史主義に 対して、〈超歴史〉と〈新しい中世〉 という理念で対抗しようとした思想潮流 について報告した。	2009.11
D 研究 ノート	「読み始められた〈新 しい思考〉——フラ ンツ・ローゼンツ ヴァイク『救済の星』 の邦訳出版に寄せて ——」	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』Vol. 19-3	ローゼンツヴァイクの〈新しい思考〉 がどのように解釈できるかを、最近 の研究動向とあわせて論じた。	2009.11
D 研究 ノート	「近代ユダヤ哲学と 歴史」	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』Vol. 19-5	「方法論」、「歴史主義」、「近代ユダヤ哲 学」というテーマについて、著者の関 心に即してまとめた。	2010.3

区分	題名	掲載誌・発行所・学会名等	概要	刊行・発表年月
D 報告書	「ベルリンの中のユダヤ人、ユダヤ人の中のベルリン」	『2009年度明治大学大学院学内GP「人文学的総合知を有する人材育成プログラム」成果報告書』、明治大学大学院文学研究科	W・ベンヤミンのメシア的時間論を中心に、彼のベルリンの幼年時代の「記憶」や他の思想家との関係を論じた。	2010.3
D 報告書	「全体性の回復と〈ユダヤ・ルネサンス〉—1900年頃のユダヤ思想をめぐって—」	『キリスト教と近代的知』(2009年度研究報告論集)、「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会 (http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/christ/modernity/journals.html)	19世紀以来のドイツの学問論を「全体性」という理念に基づき概観し、その理念が20世紀の〈ユダヤ・ルネサンス〉においてどのように論じられたかを考察した。「近代／ポスト近代とキリスト教」研究会(2010年2月24日、於京都大学)での発表原稿に加筆・修正を施したものの。	2010.3
F 学会発表	「〈宗教〉と〈歴史〉をめぐる論争——トレルチ、コーエン、ローゼンツヴァイク——」	第57回日本基督教学会、於北海学園大学	上記の論文「プロテスタント神学者トレルチとユダヤ人哲学者コーエンの論争」の基になった発表。	2009.8.29
F 学会発表	「L・シュトラウスによるF・ローゼンツヴァイク批判の射程」	第68回日本宗教学会、於京都大学	L・シュトラウスのローゼンツヴァイク批判の主眼は、ローゼンツヴァイクによる啓蒙主義理解の不徹底さにあることを解明した。	2009.9.12
F シンポジウム発表	「ベルリンの中のユダヤ人、ユダヤ人の中のベルリン」	比較都市学国際シンポジウム「都市とユダヤ性」、明治大学大学院GP・東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」(UTCP)共催、於明治大学	上記の同タイトルの報告書と同じ内容。	2010.3.12
外部研究 資金	「近代ユダヤ思想史と歴史主義の問題——ローゼンツヴァイクとシュトラウスの比較研究」	科学研究費補助金(若手研究(B))	ローゼンツヴァイクとシュトラウスの思想を「歴史主義」の問題を軸に比較した(最終年度)。	(2008年度～)2009年度

きむらみさと
木村美里

現職位：特任研究員

本学への就任：2009年4月1日

最終学歴：

2001年3月 聖学院大学人文学部欧米文化学科
卒業

2005年4月 Anglia Ruskin University MA in
European Language and Intercultural
Studies修了

2008年3月 聖学院大学大学院アメリカ・ヨー
ロッパ文化学研究科 修了

取得学位：

2001年3月 人文学学士（聖学院大学）

2005年4月 Master of Arts（Anglia Ruskin

University)

2008年3月 博士（学術）（聖学院大学大学院）

所属学会：日本比較文化学会（2009年～）、日本
ピューリタニズム学会（2009年～、事務局幹
事（2009年6月～）

担当科目：大学院コロキウム（進行補助）

専門分野：思想史、比較文化研究

研究テーマ：環境保護における思想と実践、日英
比較文化

研究内容：オクタヴィア・ヒルおよびナショナル・
トラスト研究、理想実現における日英の比較

研究業績（2009年度〈2009/4～2010/3〉）

下表参照

区分	題名	掲載誌・発行所・ 学会名等	概要	刊行・ 発表年月
D 研究 ノート	オクタヴィア・ヒル における思想的影響 —F.D.モーリスをめ ぐって—	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』 聖学院大学総合研 究所	英国の女性社会改良家オクタヴィア・ ヒルの思想形成におけるF.D.モーリ スの影響を考察。	2009.7.30
D 研究 ノート	オクタヴィア・ヒル における思想的影響 —ジョン・ラスキン をめぐって—	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』 聖学院大学総合研 究所	英国の女性社会改良家オクタヴィア・ ヒルの思想形成におけるジョン・ラス キンの影響を考察。	2009.11.30
D 研究 ノート	今必要とされる人物 像—オクタヴィア・ ヒルと上杉鷹山—	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』 聖学院大学総合研 究所	理想実現を主題にヒルと鷹山におけ る思想的影響を論じ、両者の共通点 を考察。	2009.11.30
D 研究 ノート	思想の伝え方—イン タープリテーション にみる啓発方法—	『聖学院大学総合研 究所Newsletter』 聖学院大学総合研 究所	自然観察におけるインタープリテー ションの方法を手がかりに思想の伝 え方について考察。	2010.3.31
D 研究 ノート	英国ナショナル・トラ ストの誕生—創設 者の一人オクタヴィ ア・ヒルの思想を中 心に	『日本ピューリタニ ズム学会Newslett er』 日本ピューリタニ ズム学会総務委員 会	学会の定例研究会での発表をNewslet ter用にまとめたもの。	2010.2.26
F ゲスト スピー カー	英国ナショナル・トラ ストの誕生—創設 者の一人オクタヴィ ア・ヒルの思想を中 心に	立教大学、全学カ リキュラム「自然保 護最前線」	英国ナショナル・トラストの創設につ いてその概要、オクタヴィア・ヒルの 思想およびトラストに関連する写真 や映像を取り入れて講義。	2009.12.5
F 学会 発表	英国ナショナル・トラ ストの誕生—創設 者の一人オクタヴィ ア・ヒルの思想を中 心に	日本ピューリタニ ズム学会定例研究 会	英国ナショナル・トラストについて時 代背景、創設者、創設経緯およびナ ショナル・トラストに対するヒルの考 えを発表。	2009.12.12